

## 第 5 回古都保存のあり方検討小委員会における委員等からの指摘事項等

## (1) 古都保存のあり方検討小委員会報告（案）について

## 【古都保存関係】

## (歴史的風土の保存の担い手の多様化について)

- 担い手の確保について、若い人たちを取り込んでいくことを記載できないか。
- 担い手の確保について、若い人にどうアピールしていくのかということを知りやすく記載してはどうか。また、企業の担い手については、企業が維持管理などに支援した際に何らかのメリットがあるようなことを考えられないか。
- 担い手の確保について、民間企業や子供たちなど、体験しながら新たな担い手を育成する視点が大事でないか。
- 若い人は団体としてではなく、個として興味の赴くままに活動に関わりたい人が非常に多い。そのような人たちにとっては、報告案で担い手として想定されている市民団体や企業と関わらないと担い手になれないということがハードルになる。
- 担い手とは、重みや責任も担うような者だと思うが、それ以外にも、歴史的な魅力がある都市が好きで応援している人など、自分は担っていると認識していない幅広い人たちがいて、それが強い力になっているのではないか。
- 下刈り作業などの人力か、あるいはお金を出すか、二者択一の担い手像しか想定されていないイメージなので、応援の仕方も、支援の仕方も、担い方も、もっと多様であるということを書いておくべき。
- 担い手が中心にいて、その周りでドーナツ状に様々な関わりをしている人がいて、担い手を支援することにもなっているようなイメージではないか。
- 担い手の多様化というのは、活用と関係しているのではないか。管理者などの想像もつかないような活用が出始めている。そのため、多様な活用をこれからさらに模索するなど、文言として入れてはどうか。
- 住民の愛着とあるが、教育と連携して文化を育てていくことの重要性を記載できないか。

## (自然的環境の活用について)

- まちの周りの自然環境は、単に緑としてあるだけではなくて、資源として、例えば木材など色々な形で持続的に利用されてきたことが大事なポイントなので、古都における歴史的風土として大事にする部分は守りつつ、もっと積極的に利用することによって色々な人が関わるといような記載ができないか。
- 森林では、木材を薪ストーブや伝統行事などへ利用することや、竹林ではタケノコをとることなど、ルールは持ちながらもこのような取組がいろいろ展開できれば、現代において、人と森林が色々な形でつながりを持てるのかと思う。

## 【歴史まちづくり関係】

(景観施策の充実による地域の魅力向上について)

- 歴史的風致維持向上計画の第二期計画の認定にあたり景観計画を要件とすることについて、景観計画の策定が進まないことで歴史まちづくりの取組が進まなくなってしまうのは本末転倒ではないか。ただ、歴史まちづくりが進めば景観の取組も進むということであればいいと思うので、書き方を注意した方がよいのではないか。
- 景観計画の策定を後押しするということであれば、要件という書き方もいいのではないか。
- 歴史文化資産について、例えば、戦災復興で整備された駅前の見事な並木道など、景観上だけでなく、歴史的に地域がつくってきたインフラとしても価値があるようなものもあるので、歴史文化資産は時代とともに広がっていくものである。

(その他)

- 熊本の震災では、リスト化されていない歴史的建造物が被害にあっているが、歴史的風致維持向上計画に位置づけられた建物は、被害に遭ったときにはサポートを受けられる可能性があるので、歴まち計画の作成が震災などに備える面でも役に立つことが記載した方がよいのではないか。

## 【報告(案)全般について】

- 市民団体等の活動状況の表に、活動の内容そのものを記載した方が、見ている方がイメージできてよい。
- 全体としてはよくまとめられているので、こういう形で進めていただければよいのではないか。
- 全体のまとめとしては議論した方向がしっかりと書かれていていい。
- 全体的に非常に分かりやすく、的確に取りまとめてあっていいのではないか。特に、守るだけでなく、民間の利活用を促すことが書かれていてよい。
- 報告書を分かりやすくするために、例えばコラムなど、初めて見る人にもポイントを分かりやすくする工夫があってもいいのかもしれない。
- 「優良事例や参考事例の共有を図る」や「テーマごとに整理し、分かりやすくPRする」とあるが、そのためにはイメージを共有していくことが重要だと思うので、好事例を目に見えて分かるにすると良いのではないか。

## (2) 歴史的風土保存計画変更(案)について

- 「必要に応じ、樹林の間伐と下草刈りとか病虫害の対策を行う」とあるが、場合によっては大きな木を切ること、持続的な利用で、更新をきちっとやるという範囲の中で木材を使うことが大事なので、そのような記載を検討してもらいたい。